

2022年 新年の御挨拶

(一社) 日本建設機械施工協会 中国支部長 河合 研至

2022年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、平素より中国地方における建設分野の機械化、生産性向上の推進にご支援、ご協力を賜り、篤くお礼申し上げます。

さて、建設業の抱える「人手不足」「担い手不足」「過酷な労働環境の常態化」などの課題を「見える化」することにより明らかにし、デジタル技術やデータを駆使して、建設現場の生産性に留まらず建設業社全体の変革に繋げる「建設DX」の時代がつつ



てきました。この時代に至るまでは古くは「建設CALS/EC」に始まり、「情報化施工」、「ICT」、「i-Construction」と変遷してきた訳ですが、当支部会員の様々な立場の企業が知恵や能力、人材機材を提供しあって情報化に積極的に取り組む業界のトップランナーを育てる活動をして参りました。これからも支部会員間の交流を通じて技術を後世に活かすとともに、将来に向けた技術開発を進めるべく協力していきたいと考えています。

ここ数年は、支部活動も「i-Construction」の普及促進を主体にやってきましたが、国や各団体が描くデジタル化に向け、支部会員などが保有するノウハウを結集し、建設ロボット導入や効率化・省力化・省人化などを通じて建設現場の生産性向上に貢献できるように活動してまいります。

一方、建設業界は少子・高齢化の影響を大きく受けており、とりわけ建設機械の熟練オペレーターは高齢者が多く若手が少ない状況にあります。当支部では、昨年初めての試みとして工業高校の生徒に対してCIM/BIMの体験授業を行いました。建設業界への若手就職者増加に向けて今後も継続して活動していきたいと考えています。

また、建設機械の高度化・自動化などの技術開発は進んでいますが、現状では最終的な判断はオペレーターの感覚に頼らざるを得ない状況です。色々な場面でAIの導入が進みつつある中、当支部においては、これまで毎年除雪機械の講習会やセミナー・研修会などを開催していましたが、今年からはデジタル世代の若手を確保・育成し、どのように技術継承を進めるかの点に軸足を変えて活動してまいります。

あわせて技術者・技能者の育成に役立つ建設機械施工管理技術検定試験は、この2年間はコロナ禍で運営が厳しくなっていますが継続的に実施できるよう体制を整えて取り組みます。

さらに、カーボンニュートラルの動きが加速する中、建設機械の電動化などの課題に対して当支部会員に対して先進導入事例や新技術開発情報などを提供していきたいと考えています。

結びに、各位におかれましては、引き続き日本建設機械施工協会中国支部に対する一層のご指導、ご助言をお願いしますとともに、皆様のご健勝と益々のご活躍を心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。